

こども達を温かく見守る小児高度医療の新たな拠点を開設します

京都大学医学部附属病院では、これまで多くの難治性小児疾患の患者さんに対して、先進的な高度医療を提供してきました。一般的に小児に対する医療は、診療、看護において成人とは大きく異なり、特殊な療育環境を必要とします。そこで、入院中のこども達に、よりよい療育環境と全人的な質の高い医療を提供し、また患者さんとそのご家族の生活の質(QOL)の更なる向上を図るために、2021年1月に、内科系・外科系の小児科病棟を集約的に配置し、小児医療に特化した「こども医療センター」を開設します。

当センターでは、患者さんにやさしい療育環境で、本院が有する周産母子総合医療センター、小児がん拠点病院、臨床研究中核拠点病院、がんゲノム医療中核拠点病院の機能をフルに活用し、他施設では実施困難な細胞免疫治療、臓器移植治療、難治性てんかんの外科治療、もやもや病の脳血管治療、ゲノム医療、遺伝子治療といった先進的高度医療を実践します。

こども医療センターの特徴は以下の通りです。

1 高度医療の強化

- 無菌室(陽圧室)の増設

小児がんや臓器移植の治療に必要な無菌室(陽圧室)を4室完備しています。

- 感染症対策の強化

感染症に対応可能な陰圧室を2室新設しました。陰圧室は非感染区域と区別可能な配置となっています。

- 精密脳波検査室の新設

難治性てんかん治療に必要な最新の脳波モニタリングユニットを設置しています。

2 患者さんにご家族にやさしい療育環境の整備

- 株式会社ボーネルンドと提携したプレイルームの新設

こども達の成長発達のために、安全、安心で居心地がよく、夢のあるオンリーワンのあそびの場をボーネルンド社に手がけていただく予定です。

- ホスピタルアート

病棟内には、こども達を励ますために至るところにホスピタルアートを施しています。

- ファミリールームの新設

12歳以下のご兄弟の面会やご家族でゆっくりとした時間を過ごせるように、ファミリールームを完備しています。

- AYA世代専用スペースの設置

AYA世代の患者さんの学習スペースやコミュニケーションの場を確保しています。



無菌室

小児がんや臓器移植の治療に必要な無菌室(陽圧室)を5階フロアー(内科系)に3室、4階フロアー(外科系)に1室、計4室完備しています。



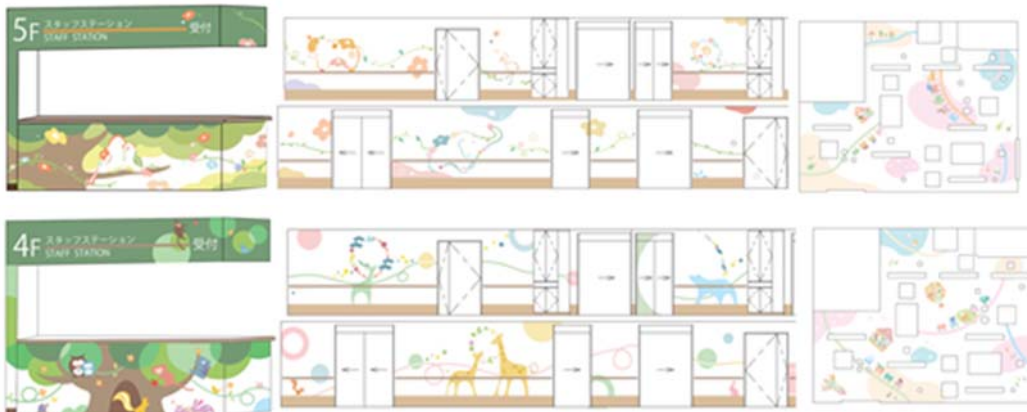
精密脳波検査室(ノイズの少ないシールドルーム)

ワイヤレスな電極による頭蓋内脳波にも対応できる126チャンネルの精密脳波検査が実施可能な最新の脳波モニタリングユニットを5階フロアー(内科系)に設置しています。



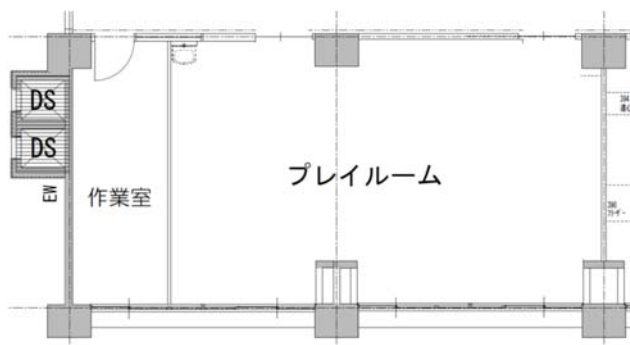
ホスピタリティーを重視したゆとりのある空間(ホスピタルアート前)と共有こども用トイレ

改装前は、1フロアー54床だった病棟を30床とし、ゆとりのある広々とした病棟になっています。また、共有スペースには幼児が使用するこども用トイレも設置し、こどもの発達に応じたきめ細やかな療育環境を提供しています。



病棟のホスピタルアート(学校法人 瓜生山学園 京都芸術大学と連携)

人と人をつなげる「えん」、1人1人の個性(ピース)を受け止めつなげる「ピース」そして、こども達が大好きな「あそび」をモチーフに京都芸術大学の学生さんがホスピタルアートを施してくれました。患者さんやご家族の励ましやなごみに繋がるようにと、何度も推敲を重ねて、デザインを考えてくれました(上段の写真は制作途中のホスピタルアート)。



ポーネルンドが手掛けたプレイルームの実績例
(画像提供:株式会社ポーネルンド)

プレイルーム

プレイルームは入院中のこども達の成長を助け、家族や友達、医療スタッフとよいコミュニケーションを図るためにかかせない場所です。当センターのプレイルームは、こども達の安全、安心を第一に考えた居心地のよいオンリーワンのあそびの場というコンセプトでポーネルンド社に手掛けていただく予定です。